

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[54]歳、 勤続年数[35]年、 現場経験年数[35] 年、 階級[司令補]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	出動	20 時 02 分
経過 2	A	現場到着	20 時 07 分
経過 3	消防隊	1 階消火活動開始	20 時 08 分
経過 4		2 階異常燃焼（爆燃）、一時退避	20 時 20 分
経過 5		鎮圧	20 時 54 分
経過 6		鎮火	22 時 56 分
経過 7	A	引揚げ	23 時 37 分
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

今回の火災事例を踏まえて火災検討会を開催し、結果、突如として起こる爆発的な燃焼現象に対し、無線交信で退避を命令することは時すでに遅く、拡声器で周知しても聞こえないときがあることから、爆発的な燃焼現象の予期を確認した際は、「ホイッスルによる警笛合図」を決め、いち早く退避できる体制を構築しました。全隊員が防火衣にホイッスルを装備しています。

○負傷事例:異常燃焼による受傷危険
(同様の体験は、これまでに1、2回程度体験している。)

(08F0099)

・発生日時 :平成19年9月24日 午後22時頃

経過	現場の状況	当事者A	備考
		車長／司令補 ・年齢 54 歳 ・勤続 35 年 ・現場 35 年 ・同様の活動:過去に1, 2回程	
	出場指令 防火造建物	出動	火災出動 機密された火災室に新鮮な空気が流入、若しくは火災室に激しく燃える可燃性物質が存在していたのかのいずれかと考えるが、それ以外にも気象条件や空気の質などが思慮される。また、現在の機密性の高い建物事情も相まって、不完全燃焼状態で高温の燃焼ガスが充満しているところに、消防隊が現場到着し、ドアや窓などの開口部を開放したことによるものと考えられる。
		現場到着	
		1階消火活動開始	
		消火活動開始後10分程度で、急激に2階一室の火勢が拡大し、異常燃焼(爆燃)。活動隊が炎に包まれたが、負傷には至らず、一時退避。	
		鎮圧	
		鎮火	
		引揚げ	

◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因:状況判断に問題があった。

◎事故が起きた背後要因
(心理・体調について) ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 (活動環境について) ・暑かった(寒かった)。